
スマブラ×逃走中 賞金をかけた壮絶な戦い

逃走中大好き無幻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ×逃走中 賞金をかけた壮絶な戦い

【Nコード】

N8621V

【作者名】

逃走中大好き無幻

【あらすじ】

急遽マスターの企画に参加することになったスマッシュブラザーズ

お馴染みの「逃走中 RUN FOR MONEY」はたして誰が
逃走成功し賞金を獲得できるのか

逃走者のステータス

ファイター達のステータスです。

スピード どれだけ速く走れるか

運 ハンターに出会ったり巻き込まれたりする確率

スタミナ どれだけ長い時間走れるか

信頼度 どれだけメンバーに信頼されてるか

積極性 ミッションに行くかどうか

マリオ 目標は逃走成功 全てにおいて平均的

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ドンキーコング 目標は逃走成功 スピードは速いが図体がでかい

ので見つかりやすい

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

リンク 目標は逃走成功 今回はマスターソードとハイリアの盾以外の装備は没収されてるため少し速くなってる

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

サムス 目標は逃走成功

ゼロスーツ状態なので足はかなり速い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ヨッシー 目標は場合によるが取り敢えず逃走成功 普段マリオ
を乗せて走ってるため結構速い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

カービィ 目標はいい額になったら自首 方向音痴それだけ。

常に食べ物の事を考えてる

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

フォックス 目標は逃走成功 狐だけあってかなり速い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ピカチュウ 目標は出来れば逃走成功 小柄な体を使いハンターから逃れる。スピードもまです

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ルイージ 目標は逃走成功 かなりの不幸体質。もしかすると悲劇が・・・

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

キャプテン・ファルコン 目標は逃走成功 メンバー内で二番目に速い。ハンターとほぼ同等

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ネス 目標は逃走成功 勿論だがP S Iは使用禁止

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

プリン 目標は気分で 足は遅いが物陰に隠れることでカバーできる

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ピーチ 目標は逃走成功

ドレスを着ているためかなり遅い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

シーク（ゼルダ） 目標は逃走成功 今回はシークでの参加なので
足はかなり速い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

クッパ 目標は逃走成功 足の速さはほぼ最下位だが頑張る

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ポポ 今回はナナと別行動少々不安らしい

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ナナ 目標は気分で決める同じく別行動で少々不安らしい
スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

マルス 目標は逃走成功 人間メンバーの中でファルコンの次くらいに速い。冷静な判断もできる

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ファルコ 目標は逃走成功 鳥なので余り速くないがクツパ達に比べれば全然マシ

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ガノンドロフ 目標は逃走成功 ほぼ全員こいつが裏切り者のだと
言ってるらしい

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ゲーム&ウォッチ 目標は逃走成功 平面なのでやや見つけやすいかも。足も以外と速い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ピチュー 目標は気分で メンバー最年少（あくまで推測）かつ体が一番小さいので茂みに隠れるとほぼ見つからない

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ロイ 目標は逃走成功 マルスよりやや遅いがそれでも全然速い方

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ミュウツー 目標は逃走成功 超能力は勿論使用禁止だが少し浮く程度なら問題無い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

メタナイト 目標は逃走成功 飛行は禁止だが低空飛行くらいなら
良い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ワリオ 目標は勿論逃走成功 金に関わるミッション以外絶対に行
かない金男
スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

(金関係)

ピット 目標は逃走成功 飛行は禁止だが飛ばなくても普通に速い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

リュカ 目標は逃走成功 ビビリなので基本物陰に隠れてる

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ディディーコング 目標は逃走成功 身軽で足も速い。バナナを食べることも
スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

アイク 目標は逃走成功 今回ラグネルは預けているため結構速く
なっている

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

デデデ 目標は正直どうでも良い 足はクッパと並ぶくらい遅いが
ハンマーが無いだけまだマシか？

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

キャプテン・オリマー 目標は逃走成功 スタミナはかなりある。
因みにピクミンは連れていない

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ポケモントレーナー 目標は逃走成功 普段ポケモンを指示してる
ため運動神経は良くないポケモン達は参加無し

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ルカリオ 目標は逃走成功 波導は使用禁止。それでも多少気配を
探ることができる

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ロボット 目標は逃走成功 機械なのでスタミナやスピードと言う
概念が無いが他は書いておく

スピード？

運

スタミナ？

信頼度

積極性

トゥーンリンク 目標は逃走成功 小さいくせに以外と速い奴。
リンクより速い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ウルフ 目標は逃走成功 足は速くないがスタミナと運は結構ある

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ソリッド・スネーク 目標は逃走成功 ダンボールに隠れることは可能だがハンターにはダンボールの中が見えるため効果は無い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

ソニック 目標は逃走成功 本気を出せばハンターをすぐに振り切

つてしまったためマスターにロックをされているがそれでもハンターより速い

スピード

運

スタミナ

信頼度

積極性

いきなり企画された逃走中（前書き）

この作品は前から連載中の『スマッシュハンターブラザーズ』が終了してから書き始めるつもりです。

時間列的には『スマッシュハンターブラザーズ』のすぐ後になります

いきなり企画された逃走中

マスターは伝えたいことがあると言いきスマッシュブラザーズ全員をそれぞれの世界から呼び寄せた

マリオ「なんだよ一体。俺はこれからキノコスープ飲もうとしたのによ」

マリオが文句を言った瞬間全員からも文句が飛んできた

マスター「落ち着け。それより今日読んだのは他でもない逃走中をやってもらっ」

全員「逃走中!?!」

マスター「そうだ今から舞台の世界に飛ぶぞ・・・それ!!」

マスターが指を鳴らした瞬間全員の姿が消えてしまう

いきなり企画された逃走中（後書き）

次はオープニングゲームです

スマッシュパークとオープニングゲーム（前書き）

マスターに連れられてこられた場所とは

スマッシュパークとオープニングゲーム

マスターにワープさせられてきた場所は巨大なマリオ達の像が立て
てあるテーマパークだった

??? 入口付近

マスター「此処が君達が逃走中をする舞台スマッシュパークだ」

此処はスマッシュパークマリオ達スマッシュブラザーズのそれぞれ
の世界を模した巨大なテーマパークだ

大きさは約東京ドーム15個分かなりの大きさだ

1秒200円 120分間逃げる事になる 逃走成功で獲得賞金1
44万円

ハンターに捕まると勿論0円
それがこの逃走中のルールだ

すると辺りを見渡していたカービイが

カービイ「うわぁ!?!何あれ!?!僕?」

カービィの指差した方向には自分達そっくりの巨大な石像があった

マスター「言っただろう此処は君達スマッシュブラザーズのテーマパークなのだから。よし私に付いてきてくれ」

マスターはそう言うと一人何処に向かう

それと同時にメンバーも付いていく

スーパーマリオ記念館

マスターに連れられてやって来たのは屋根がキノコの形をした家や巨大な城が2つあった

マリオ「此処はキノコタウンか？俺達の家もある」

ルイージ「ピーチ姫の城もあるね！」

ピーチ「あら？その隣の城って」

クツパ「ぬお！？我輩の城ではないか！じゃあ此処は我輩達の！？」

四人は自分達の世界に良く似ていたため驚きを隠せなかった

マスター「そう此処は君達四人の世界を模した場所だ。さて・・・
此処でオープニングゲームを行って貰う」

全員「オープニングゲーム！？」

マスター「そうこれを見てくれ」

マスターが指差す先には何十本もある鎖とその先に檻に入った黒い服を着た3人の人間

リュカ「な・・・何！？あの人達檻に入ってるけど」

リュカは恐る恐るマスターに質問する

マスター「あれがハンターだ。そしてあの鎖の内一本がハズレでそれを引くとハンターが出てくるって仕組みさ」

アイク「で誰がそれを引くんだ？」

マスター「それはこれで決めてくれ」

マスターは指を鳴らすと沢山の棒の入った箱を出す

ファルコン「くじ引きか・・・」

マスター「そうこれで順番を決めて一番から順に鎖を引いていくのさ」

マリオ「じゃあ全員で一斉に取るぞ・・・せーのー!」

マリオの声に合わせて棒を取ると先端に数字が現れた

リンク「十番か」

ソニック「Whyまさか二番とは」

ルイージ「うわ一番だ・・・」

そうメンバー1の不幸者ルイージが1番だったのだ

ルイージはしぶしぶ鎖の前に立つ

因みに他のメンバーは10メートル離れて逃げる体制を取っている

ネス「な・・・何色引くの？」

ルイージ「勿論緑だよ・・・よし引くよ」

セーフか放出か・・・

ジャララ・・・

シーン

セーフだ

ルイージ「やったー!!」

ルイージはセーフだった事に歓喜の声を上げる

ルイージ「じゃあ皆頑張ってね」

ルイージはそのまま走って行く　因みにセーフだった場合先に逃げられるのだ

マスター「そうだルイージパーク内に何人か作者がいるかもしれないから居たら声を掛けるんだぞ」

ルイージ「分かった」

ルイージはそのままスーパーマリオ記念館を去っていく

ソニック「次は俺だな」

フォックス「何色引くんた？青か？」

ソニック「That's Right　正解だ。行くぜ！！」

セーフかハンター放出か

ジャララ・・・

セーフだ

ソニック「OKじゃあ頑張れよ」

ソニックは凄いスピードで走って行く

三番 シーク

シーク「僕か・・・僕は黒にしようかな」

セーフかハンター放出か

ジャララ・・・

セーフだ

シーク「ふう・・・心臓に悪いね」

その後もセーフが続く

四番 デテデがオレンジを引いてクリア

五番 ミュウツーが紫を引いてクリア

六番 プリンが黄緑を引いてクリア

七番 リュカが茶色を引いてクリア

八番目 ファルコ

ファルコ「チツまさか俺まで回ってくるとは」

トゥーン「何色引くの？」

ファルコ「水色だ」

トゥーン「なんで？」

ファルコ「アーウィンの青と白を足した色だからな」

ウルフ「フン鳥らしい思考だな」

ファルコ「んだと」

ファルコはウルフに喧嘩を売りに行くとする

マスター「早くやれ」

ファルコ「チッ分かったよ。じゃあ行くぜ」

セーフかハンター放出か

ジャララ・・・

ガコン

ハンターが放出された勿論狙いは近くにいるファルコ

ファルコ「くそっ振り切れねー!!」

ファルコは必死の思いで逃げる

その行為が実を結んだのか一番遅いクツパを抜かして行つたのだ

クツパ「ぬお！？あの鳥我輩を抜かして行つたぞ」

ハンターは視界に入る一番近くの逃走者を狙う

つまり

ハンターは標的をファルコからクツパに変えたのだ

クツパ「くそー来るなー」

だがハンターはそんなこと聞いてくれるはずもない

ポン

クツパ確保 残り38人

クツパ「くそーあの鳥め」

こうしてスマッシュパークでの逃走中は幕を開けた

スマッシュパークとオープニングゲーム（後書き）

補足です。ゼルダはシークでサムスはゼロスーツサムスでの参加です

トレーナーとオリマーはポケモンとピクミンを連れていません

ハンターの恐怖とミッション1（前書き）

さらに補足です。アイスクライマーの二人は別行動です。

ハンターの恐怖とミッション1

クッパが早速確保され

マリオ「確保情報　クッパ確保！？ハハハあいつファルコに追い抜かれてたな確か」

マリオは一人黒笑いをしていた

ついに始まった逃走中その頃色々な場所に移動したメンバー達は

ドンキーコングエリア

此处はスーパーマリオエリアに隣接する場所でコングファミリーの家やジャングル、巨大な滝が再現されていた

カービィ「あれ？此处何処ー？ドンキーの場所ってのは分かるけど」

地図が読めない方向音痴なピンク玉

ドンキーコングエリア コングファミリーの家前

マルス「ふう・・・この広いジャングルなら上手く巻けそうだ」

ジャングルを上手く使いハンターを回避するつもりだ

だがその後ろに人影が

スネーク「この場所なら隠れられそうだ」

スネークだ。どうやらマルスと同じ考えのようだ

マルス「あ、スネークさん」

スネーク「マルスカ、どうだ？逃げ切る自信は？」

マルス「勿論ありますよ！！ん？あれハンターじゃ？」

スネーク「そうらしいなじゃあな。頑張れよ」

スネークはそう言い残すと反対方向に逃げていく

だが足音に気付き確保に向かう

因みにマルスは家の陰に隠れてたため助かった

スネーク「くそ、気付かれたか！？」

だがジャングルを使い巧みに逃走を試みる。だが・・・前方からもハンターが

スネーク「まじかよ・・・」

スネーク囲まれる

スネーク「もはやこれまでか」

ポン

スネーク確保残り38人

スネーク「畜生・・・」

伝説の傭兵散る

ピカチュウ「確保情報ドンキーコングエリア コングファミリーの家付近でスネーク確保!？」

マルス「スネークさん・・・」

スネークがすぐ近くで確保された事により悲願し同時にハンターの恐怖も味わった王子

カービィ「え？此処ドンキーエリアエリアだよね！？早く逃げよ・・・」

カービィはそのまま逃走をはかる

ゼルダの伝説エリア

此処はトワイライトプリンセスと風のタクトの2つに別れている。
トワイライトプリンセスはハイラル城下町にハイラル城、風のタクトは大海原をプールに模して作られている

そこに一人の逃走者

ポポ「ハンターがいるよ・・・」

そこに一体のハンター

ポポ「早く行ってくれないかな・・・」

草むらに隠れてるポポしかし草むらに隠れ切れてないのをハンターに発見される

ポポ「うわー来るな!!」

必死に逃げるポポ。しかしハンターは早いすぐに距離が詰まる

ポン

アイスクライマーのポポ 確保 残り37人

ポポ「うう・・・」

確保されたポポその場に座り込む

ナナ「ポポ確保。くそーハンターめ」

ナナはパートナーが捕まりかなりご立腹のようだ

ロボット「マダ10分シカ経過シテナイノニ三人モ捕マッタ。私モ
氣ヲ付ケナケレバ」

改めてハンターが恐ろしいと思ったメンバー達そんな中一本のメールが

トレーナー「メールだ」

ルカリオ「F-ZERO、ヨッシーアイランド、MOTHERのエリアにそれぞれハンターボックスを設置した。阻止しなければ最大

10体のハンターが放出される。阻止するには近くにあるレバーを引きボックスをロックするだけである」

MISSION ハンター放出を阻止せよ

中央に隣接した3つのエリア。そこにハンターボックスがそれぞれ2個ある。残り95分までに阻止しなければ最大6体のハンターが放出される。阻止するかしないかは逃走者の自由である

デデデ「わしは行かんゾイ絶対行かんゾイ」

ガノン「誰かがやるだろう・・・。」

ピチュー「行かないでチュハンター怖いでチュ」

参加しない人はやはり多い。だが・・・

リンク「行きます」

ヨッシー「僕も行こう。ハンターこれ以上増やしたくないし」

メタナイト「ちょうど近いし行くとするか」

トレーナー「あれ？これってハンターボックス？」

たまたまF・ZERO記念館のハンターボックス付近に居たトレーナー

トレーナー「よいしょ・・・」

ハンターボックス ロック残り9体

トレーナー「また近くにあるかもしれないから探すか」

再び歩き始めるトレーナー

ファルコン「一番近いのはヨッシーアイランドエリアだな」

ファルコンは俊足を生かし猛スピードで向かう

ミュウツー「・・・向かうか」

こうして6人がロックに向かう

残り時間109分

残り逃走者36人

ハンターの恐怖とミッション1（後書き）

果たしてハンターボックスをロックできるのか

それと作者様募集なので良ければ参加してください

ミッション1・Part1（前書き）

ミッション1です

ミッション1 - Part 1

ハンター放出を阻止するために中央の3つのエリアに向かう

リンク「よし此処だな。早くハンターボックスをロックしないと。何処だ？」

リンクはMOTHERエリアに到着した

アメリカな建物や乗り物が目立つネスの故郷オネット 逆に少し落ち着いた雰囲気が目立つリュカの故郷タツマイリ村の2つに別れている

リンク「近くには無いらしいですね。急ぐか」

リンクは走るスピードを上げてオネットに入っていく

ヨッシーアイランドエリア

此処は名前の通りヨッシーの故郷でありのどかな雰囲気を出している

そこにある逃走者

ヨッシー「此処ですかね？」

ヨッシーだ

ヨッシー「でも本当にヨッシーアイランドにそっくりだな。あ、スーパーしあわせのツリーがある。美味しそう」

涎を垂らすヨッシー。しかしこれはあくまでも模造品であるので食べられない

ヨッシー「あ、そうだハンターボックスだ。何処だろう？」

辺りを見渡すヨッシーそこに

ヨッシー「あ、これかな？」

近くにあったハンターのレバーを下ろす

残りハンターボックス 8体

残り時間 107分

一方少し離れた場所に

ファルコン「此処だな？何処だ？ハンターボックス」

だがそこに

ハンター「!!」

ファルコンの後ろ姿を確認し確保に向かう

ファルコン「ん？うわハンターだ!!」

だが足音に気付いたファルコン 急いで逃げる

メンバー内で二番目に足が速いファルコンその自慢の俊足で距離を
離す

ハンター「・・・？」

どうやら逃げ切ったらしい

ファルコン「ハア・・・ハア・・・ハア・・・疲れた。ハンターってあんなに速いんだな・・・ん？」

ファルコンが見た物は・・・

ファルコン「これか？ハンターボックス？」

なんと幸運にも走り終えたすぐ近くにハンターボックスを発見した
ファルコン

ハンターボックス ロック 残り7体

ファルコン「よし後何体だ？・・・7体か近くにあるかもな・・・行くか」

ファルコンは再び走り始める

F・ZERO記念館

此処はキャプテン・ファルコンの故郷でもあり宇宙を舞台にしたレース F-ZERO の行われている街の一つである

そこに

トレーナー「うーん見当たらないな・・・あれから・・・」

トレーナーだ！！彼はミッションが始まって直後にハンターボックスをロックしたがあれから見つかっていない

トレーナー「すごい都会だな・・・此処。確か大乱闘のステージにこんな所あったような・・・」

上空に設置されているレース場を見ながら呟く

トレーナー「誰かに電話しようかな・・・」

トレーナーはリュックから携帯を取り出し物陰に隠れて誰かに電話し始める

逃走者には一人一個携帯電話を渡されていて連絡の取り合いは自由である

余談ではあるが携帯の無い世界や知らないもの（ファイアーエムブレムやゼルダの伝説、トレーナー以外のポケモン達など）は前もってマスターから説明を聞かされている

トレーナーの掛けた相手は

リュカ「もしもし？」

リュカだ トレーナーとリュカは亜空軍の事件の時から仲良くなっている

トレーナー「もしもしリュカ？今何処に居るの？」

リュカ「今は・・・F・ZERO記念館の建物の陰だけだ」

トレーナー「そうなんだ。ねえリュカミッションやらない？それがやらなくても良いから辺りを見渡してみて」

リュカ「え？辺り？ん？」

リュカは恐る恐る建物の陰から出てくる　すると

リュカ「あ、これって」

トレーナー「え？もしかして見つけたの？ハンターボックス」

リュカ「うん！！じゃあ引くね」

ハンターボックス　ロック　残り　6体

トレーナー「後は僕がやるよりユカと同じ記念館に居るから」

トレーナーはそのまま電話を切るつとする

リュカ「待つて。やっぱり僕も手伝う！」

トレーナー「え？手伝ってくれるの？」

リュカ「うんどジで甘えん坊な僕だけど皆の役に立ちたいんだ」

トレーナー「そうか・・・ありがとうリュカ一緒に頑張ろう」

リュカ「うん分かった。じゃあねトレーナーさん」

リユカはそのまま電話を切り走り出す

同時にトレーナーも電話を切り陰から出て走り出す

残り時間 103分

ミッション残り時間 8分

ミッション1・Part1（後書き）

トレーナーとリュカの話長くしすぎた・・・まあ気にすることは
ないか

ミッション1・Part 2（前書き）

Part 2です

ミッション1 - Part 2

MOTHERエリア オネットサイド

リンク「くそっ何処だ？こっちサイドにはないのか？しょうがない
別の方を探すか・・・」

どうやら隣にあるタツマイリ村にむかうらしい

ヨッシーアイランドエリア

ファルコン「よし、頼んだぞ」

ピッ

どうやら誰かに電話していたらしい

その相手とは

フォックス「しょうがない・・・行くか」

フォックスだ。彼は何かを頼まれると断れない質らしく今回も引き受けてしまった

フォックス「でも俺遠いんだよね・・・一番近いのがMOTHEREリアか・・・」

今フォックスはピクミンエリアに居たのでかなり遠いが向かうらしい

F-ZEROエリア

今現在ミッションに挑む逃走者は此処に四人居る

二人はトレーナーとリュカ。そしてもう二人はトレーナーの居るほぼ反対側に居た

ミュウツーとメタナイトだ

ミッションに向かっている途中偶然出会った二人は現在一緒に行動している

メタナイト「見つからんな・・・なあ、ミュウツー」

ミュウツー「・・・何だ？」

メタナイト「此処からは別行動しないか？そうした方が見つけやすいだろう」

ミュウツー「・・・そうだな。では私はこっちに行く」

メタナイト「では私はあっちに向かう。お互い頑張ろう」

ミュウツィ「・・・ああ」

そう言つとミュウツィとメタナイトは丁字の道を別々に進んだ

MOTHERエリア

リンク「あつた。これだ!!」

リンクはオネットを後にしようと走っているときハンターボックスを見つけた

ハンターボックス ロック

残り 5体 ミッション終了まで 6分

ヨッシーアイランドエリア

ヨッシー「あ、あつた。よいしょ！！」

ハンターボックス ロック

残り 4体

F-ZEROエリア

リュカ「あ、これだ」

ハンターボックス ロック

残り 4体

一方 トレーナーは

トレーナー「うわハンターだ。やべ」

ハンターに見つかってしまい逃げている

だが距離はどんどん縮まっていく

ポン

トレーナー確保 残り 35人

トレーナー「くそっ」

トレーナーはそのまま座り込む

リユカ「トレーナー確保。トレーナーさん・・・」

ピカチュウ「うわー初めてポケモン組が捕まった！！ん？他にメー
ルが」

ハンターボックスはMOTHERエリアに3個 ヨッシーアイラ
ンドエリアに3個 F-ZEROエリアに4個設置してあった

なので 現在MOTHERエリアに2個 F-ZEROに2個
残っている

これは今やっと逃走者に届いた内容だ

フォックス「まずいな。だがもう後1分あれば付く」

フォックスは足は三番目に速い。それを生かして走る

メタナイト「これがそうか？」

メタナイトは道中でハンターボックスを見つける

ハンターボックス ロック

残り3体 ミッション終了まで 3分

一方ミュウツーもハンターボックスを見つけたが・・・

ミュウツー「・・・ハンターが居るな」

そう先程トレーナーを確保したハンターだ。ハンターボックスの前でずっと立ち止まっている

そしてやっとハンターボックスから離れる

ミュウツィ「今しかないな」

ミュウツィは全力で走る(?) 実際には浮いているが・・・

ハンターボックス ロック

残り 2体 MOTHERエリアのみとなった

だが・・・

レバーを下ろした音に気づきハンターがこちらに向かって来る

ミュウツィも全力で逃げている。幸い距離が離れていたなので角をうまく利用して逃げ延びた

MOTHERエリア

ようやく到着したフォックス。タツマイリ村に入っていく

フォックス「何処だ？ハンターボックスは？」

リンク「後2分か。不味いな・・・」

ハンターボックスを探している二人に焦りが見える

その時

フォックス「あれはハンターボックスか？」

なんと目の前にハンターボックスを見つけるが・・・

ハンターだ

フォックス「不味い逃げるぞ」

いきなり角からハンターが現れ驚きながらも冷静に逃げるフォックス

だが走る速さがほぼ互角なので中々振り切れない

そして30秒程続いた勝負はフォックスが勝利した

フォックス「はあ．．はあ．．何とか振り切れたが間に合うか？」

フォックスはかなり疲れている上にハンターボックスへの距離も離れてしまった

フォックス「よし行くぞ！！」

フォックスは再びハンターボックスに向かう

そしてリンクもミッション終了1分前にようやくハンターボックスを見つけロックに向かう

果たして二人はロック出来るのか。はたまた放出させてしまうのか

それは次回お楽しみに

ミッション1・Part2（後書き）

次回でミッション1終了です

ミッション1・Final（前書き）

ミッション1 最終回です

ミッション1・Final

前回残り2つのハンターボックスを見つけたフォックスとリンク。
残り時間は1分を切っている急げ！！

フォックス「はあ．．はあ。不味いさつき体力を使いすぎた．．．」

フォックスは道中で立ち止まる。まだハンターボックスまでは距離がある

残り時間は32秒

リンクの方は．．．

リンク「う．．．ハンターが居る」

10mくらい離れた物陰に身を潜めるリンク

リンク「早く行ってくれ・・・」

リンクは若干イライラしながらその時を待つ

だが残り時間は１９秒

フォックス「はぁ・・・はぁやっと見えてきた」

やっとさっきのところに戻って来たフォックス

だが距離は１００m程度残っている

フォックス「間に合え！！」

残り時間 １０

9

8

7

6 リンク「よし、でも時間が・・・諦めるしかないか」

遂に諦めた勇者

5

4

3

2 フォックス「不味い逃げるか」

こちらも諦める

1

0

プシュー

ハンターボックスから煙が吹かれた後中からハンターが現れた

牢獄

スネーク「ミッション結果ハンター2体放出。合計5体」

ポポ「ヤバイじゃん」

クッパ（マリオ捕まれマリオ捕まれ・・・）

ひたすら心の中で叫ぶクツパ。馬鹿かお前は

トレーナー「皆大丈夫かな・・・」

はい終了。牢獄に居る人はまた当分出ないと思うよ

牢獄の全員「ふざけるなー!!」

無幻「ふざけてないよ本当だよ。それに捕まるのが悪いんじゃないか」

牢獄の全員「う・・・」

図星であるため何も言い返せない

因みに何故俺が居るかと言うと牢獄のそばで観戦である

たまにエリア内歩き回ったりとお気楽な性格である

そのせいでミッションに巻き込まれてしまつかも・・・

ま、置いといて取り敢えず話戻します

カービィ「ハンター5体か・・・自首しようかなあ・・・」

草むらで一人呟くカービィ

自首とはスーパーマリオ、星のカービィ、スターフォックス、ファイアーエムブレムエリアの何処かに設置されている自首用ボックス。それで電話をして自首したいと言えばそれまでの賞金を獲得できる

だがカービィは地図が読めないので今自分が何処に居るか分からない

そこに

ファルコ「カービィじゃねえか」

カービィ「あ、ファルコ!! ちょっと話が」

ファルコ「おいおい何だよ」

カービィは無理矢理物陰に連れていき話をする

ファルコ「お前自首するのか。だったら」

ファルコはカービィに今居る現在地。一番近い自首ボックスを教えた

カービィ「ありがとファルコ。頑張ってね」

ファルコ「ああ勿論だ」

ファルコはカービィとは反対に歩いて行った

残り時間 93分

残り逃走者 35人

ミッション1・Final（後書き）

以後たまに俺こと無幻 が登場するんで宜しく!!

ミッション1後の逃走者の心理と裏切り者（前書き）

自首を目指す者や裏切る者色々います

ミッション1後の逃走者の心理と裏切り者

ハンターが2体放出され計5体のハンターがエリアを徘徊している

その頃自首用ボックスを目指していたカービィは

カービィ「うーん自首用ボックス何処？」

ファルコが場所を教えてくれたにも関わらずまた迷ってしまった

カービィ「ファルコがちゃんと道教えてくれないからだよ」

人のせいにするピンク球。お前が方向音痴だからだろ

するとそこに

トゥーン「あ、カービー!!」

カービー「あ、トゥーンじゃん丁度良かった自首用ボックスの場所教えて」

トゥーン「え自首するの？実は僕もなんだよ」

どうやらトゥーンも自首するらしい。仲間がいて安心してゐるカービーだがそれも束の間である

カービー「うわ！？ハンターだ逃げろ」

トゥーン「ヤバイ速く逃げなきゃ」

二人は一緒に逃走を試みるが圧倒的にトゥーンの方が速いのでカービーを放って行ってしまった

カービィ「ちょ・・・待つ・・・痛!！」

トウーンに追い付くために速く走ろうとするが足が追いつかず転んでしまう

カービィ「うわー待って待って食べ物あげるから」

カービィは転びながらハンターに訴えるがハンターはそんなことを聞かない

ポン

カービィ確保 残り34人

カービィ「うえーん」

よっぽど悔しかったのか倒れながら泣き出す

そこに

アイク「カービィそんなところで何してるんだ？」

カービィ「うえーんびえーん」

アイク「・・・何なんだ一体??」

アイクはカービィを不思議そうに見つめながら走っていく

オリマー「あ、メールです。カービィ確保」

トウーン「カービィ捕まっちゃたんだ。でもやっと着いたよ」

トゥーンは無事に星のカービィエリアの自首用ボックスにたどり着いた

此処はププランドの町やデデ城、カービィの家。終いには戦艦ハルバードまで置かれていた（注 これはレプリカです。）

トゥーン「さていい金額になるまで隠れとこっと」

そう言うのと近くの茂みに身を潜む

アイク（さっきカービィが泣いてたのはこれだったのか）

アイクは心の中で思いながら走っていた

そんな中逃走中の明暗を分ける一本のメールが

ゼルダ「何々・・・」裏切り者を今から1分間募集する先着順で一名だけで逃走者を通報し確保されると逃走成功時に+10万追加されるが他の逃走者同様ハンターに追いかけられ確保されると0になる『う・・・裏切り者ですか』

ゼルダは若干裏切り者が現れることに動揺している

ネス「仲間裏切つてまでお金は欲しくないよ」

メンバー内で一番黒いネス。仲間思いではあるようだ

ほとんどの人がそうであるはずだった

裏切り者募集終了まで残り

10

9

3

4

5

裏切り者が出てしまった

? 「??? 裏切ります」

その時

6

7

8

2

ピット「あれ？もう誰かが電話したのかな？」

こいつも裏切ろうとしたらしいが先客者が居た

1

0 募集終了

裏切り者の居るメトロイドエリア

此処はサムスの世界をモチーフにされ酸の海（本物ではありません）
や狭い足場に複雑な地形で構成され上空にはリドリーもいる

？「裏切り者になったし通報するか・・・ん？あれは・・・」

ピカチュウ「裏切り者怖いピカ」

ピカチュウだ。裏切り者はすぐさま携帯を取り出す

？「ピカチュウメトロイドエリアに居ます」

通報を受けたハンターはすぐさま確保に向かう

ピカチュウ「賞金手に入れたらきのみいっぱい買っピカ」

そんな事を思ってるピカチュウに背後から黒い影

ピカチュウ「それと・・・うわぁハンターだ。ヤバイ」

気配に気付き逃げるピカチュウだが距離が近すぎるため逃げ切れない

ポン

ピカチュウ確保 残り33人

ピカチュウ「悔しいピカ・・・」

へたれこむピカチュウ。これで裏切り者は+10万だ

ピチュー「確保情報ピカチュウ確保 兄ちゃんが裏切り者の通報で捕まった・・・許さないでチュ」

茂みで悲しむ弟だが同時に怒りも込み上げる

？「もう+10万か楽なもんだ」

そう言いながら何処かに歩いていく

ミッション1後の逃走者の心理と裏切り者（後書き）

果たして裏切り者は誰なのか

通報を続ける裏切り者とミッション2の前触れ（前書き）

今回はある作者様が登場します

通報を続ける裏切り者とミッション2の前触れ

裏切り者が現れ焦りも見え始める逃走者達。

だがそんな事を思っている逃走者をよそに通報し賞金を獲得する裏切り者

ポケットモンスターエリア

ここはポケモン赤・緑の主人公の住むカントー地方の彼の故郷のマサラタウンや他にもトキワの森、お月見山、ハナダの洞窟まである

そこに二人で行動する逃走者と物陰に裏切り者

ファルコ「裏切り者が隣のメトロイドエリアで通報したらしいな」

ロボット「ソウデスネ細心ノ注意ヲ払ウ必要ガアリマスネ」

ファルコとロボットだ。ファルコはカービィに道を教えた後歩いているとたまたまロボットと出会い行動していた

ファルコ「しかし逃走中だったか？相当真剣を使うな」

ロボット「ハイ、私コレガ始マツテカラ心臓ガどくどくトズツト言ッテマス」

ファルコ「そ・・・そうか（てめえ心臓無いだろ・・・）」

そんな事を言いながら歩いていた二人だったが・・・

？「居た居た。さて通報通報」

裏切り者は上機嫌で携帯を取りだし通報を始めた

？「ファルコ、ロボットポケットモンスターエリアに居ます」

そしてすぐさま確保に向かうハンター

ファルコ「何だかさつきから誰かに見られてる感じがしてしょうがないぜ・・・」

ロボット「気ノセイデハ？」

ファルコ「いや・・・ん？ちょっと待てハンターが来てるぞ」

ロボット「まじデスカ！？速ク逃ゲマシヨウ」

二人は別々の道に別れて逃げる

ハンターが追いかけたのは

ロボット「コッチデスカ!？」

ロボットだった。必死に逃げるが距離が詰まる

ロボット「モウ限界デス・・・」

スタミナ切れと言うより燃料切れになりその場で止まる

ポン

ロボット確保 残り32人

ロボット「モシカシタラ裏切り者カモ知レマセン」

予想的中だ!!

？「ククク・・・これで20万か・・・」

怪しい笑いを浮かべながら去ってゆく

その頃俺は

無幻 「さて何するかな・・・」

もう一つの姿（詳しくはこれがもう一つの俺の姿にて（笑））の俺とある人物の二人でエリア内を歩いていた

k「ファイアーエムブレムエリアはどうですか？」

kさん 世にもカオスな逃走中inキノコワンダーランドゝ珍事件を乗り越えろゝ等の作者でたまたま出会ったため行動中である

無幻 「良いねゝ行こうぜ」

注 普段人間時はこんな口調ではありません。ポケモン時での性格です

k 「じゃあ早速・・・ん？何でしょうあれ？」

無幻 「鍵見たいだな。取り敢えず拾つとくか」

たまたま拾った鍵。これがミッションへと繋がる

プルルルル

マリオ「ビックリさせやがって何々」メイドインワリオエリアに賞金減額装置を設置した。残り時間80分までに阻止しないと以後毎

秒100円以上になる阻止するには現在ファイアーエムブレムエリアに向かっている無幻　及びkさんから鍵を貰いそれで減額装置をロックするべし』」

ミッション　賞金減額装置をロックせよ

何者かによって設置された減額装置、二人の作者から鍵を貰い阻止するのだ

ディディー「賞金減っても別に良いから隠れてよ」

ネス「賞金が減っても100万くらい貰えるんなら上等だよ。行かない」

デデデ「ワシは沢山金を持ってるからこれだけ減らされたくらいどうってことないゾイ」

このように賞金減額を気にしない者も居るが

ワリオ「フンガー！！賞金は絶対減らせねえぞ！！」

オリマー「行きましょう。皆さんの為、家族の為に」

アイク「少しでも金が多いに越した事は無い行くか」

シーク「僕も向かうか」

現在四人がミッションに向かう。果たして減額を避けられるのか

残り時間 89分

通報を続ける裏切り者とミッション2の前触れ（後書き）

牢獄 DEトーク

カービィ「捕まっちゃったよ。自首しようと思ったのに」

ピカチュウ「裏切り者に通報されたピカ・・・」

ロボット「確保サレタラ成敗スル必要ガアリマスネ！！」

ピカチュウ「当たり前ピカ」

スネーク「よし俺らも協力するぞ」

トレーナー「卑怯者をフルボッコにするぞ！！」

全員「おー!!」

こうして裏切り者成敗同盟が結ばれた 確保されるのが楽しみだ

ミッション2に向かう者。企みを考える裏切り者（前書き）

ミッション2です

ミッション2に向かう者。企みを考える裏切り者

アイク「さて丁度この辺りに来るらしいが此処は3つの場所に別れているからな」

たまたまファイアーエムブレムエリアに居たアイクだが此処はなんと一つのエリアが三分割されてるため何処に俺らがくるか逃走者達は少々悩んでいた

一つは紋章の謎エリア 此処はマルスの住むアカネイア大陸のアリティア王国を中心にモチーフされている

2つ目は封印の剣エリア ロイの故郷エレブ大陸でありフェレ家の城や民家が数件ある

3つ目はアイクの世界 蒼炎の軌跡エリア。テリウス大陸を舞台とし、クリミア王国やアイク達のグレイル傭兵団の拠点がある。

因みにアイクは現在封印の剣エリアに居る

アイク「誰かに電話してみるか」

アイクは懷から携帯電話を取り出しまだぎこちなさを残した指使いで誰かに電話し始める

その相手とは

ワリオ「もしもし？あ？誰だ俺様に電話したのは！！」

ワリオだ。アイクはこいつなら確実にミッションに来ると予測して電話したらしい

アイク「俺だ。アイクだミッション行くのか？」

ワリオ「何当たり前な事言ってるんだ。行くだろ普通」

ワリオはかなりの大声で電話相手のアイクと通話する

アイク「（しかももう少しボリュームを下げられないのか？）やはりな。で、本題だがまず作者達が向かうファイアーエムブレムエリアだが3つに別れている。だからどの場所に来るか分からないんだ」

ワリオ「あつそう。で？俺様にどうしろと？」

鼻くそをほじりながら話すワリオ

アイク「俺は今封印の剣エリアに居る。お前は後2つのどちらかに向かってくれないか？」

ワリオ「今回は金が掛かっているから仕方無いが今回だけだぞ！」

アイク「すまない。恩に切る」

そう言って電話を切る

ワリオ「おい！！仕方無いゆっくり向かうか」

そう言って曲がり角を曲がる時だった

ポン！！

ワリオ確保 残り31人

ハンターと鉢合わせになり気づかずに確保されてしまった

ワリオ「！！？」

気が動転しており状況が掴めていない

そのころ 牢獄では

トレーナー「確保情報。ワリオ確保!!」

クッパ「あの馬鹿にしては頑張った方では無いのか？」

カービィ「確かに!!」

ポポ「ここで下品な事しなければ良いけど・・・」

ピカチュウ「絶対するに決まってるピカ」

スネーク「その時は手榴弾でも喰わせてやれ」

ロボット「貴方以外ソナ事シナイト思マスヨ……」

一方

アイク「ワリオが捕まったか……後來そうなのは誰だ……」

アイクはワリオが捕まり予定が狂ってしまっ

アイク「後は運に任せるしかないか……」

そう言っで近くを探すため走って行く

その頃裏切り者はある考えを思い付いた

？「そっだあいつらの目的地は分かっているんだ・・・そこで通報すれば大儲けだ」

かなり悪知恵が働くらしい裏切り者。メイドインワリオエリアに向かうのであった

残り時間 87分

ミッション終了まで 7分

ミッション2に向かう者。企みを考える裏切り者（後書き）

ファイアーエムブレムはやった事ないんで説明に足りないことや追加すべき物があれば言ってください

怒涛の確保ラッシュ（前書き）

今回は怒涛の確保ラッシュです

怒涛の確保ラッシュ

ミッション2が開始され数分が経過した。

そのころミッションに向かっていない人は

スターフォックスエリア

此処は惑星が色々な場所にありアーウィンやウルフェン等の戦闘機が銃撃戦が行っている

そこにルイージが居た

ルイージ「お願いだからハンター来ないでよ・・・」

しかし彼はマイナスな事を言うと必ず起こってしまうほどの不幸体質。それが今回も発生してしまう

ルイージ「うわ、ハンター！？ヤバい逃げないと！！」

ルイージは必死で逃げる・・・その先に

ナナ「私もミッション参加したいけど勇気が・・・」

ナナだ・・・まだハンターが接近している事に気付いていない

ルイージ「ナナちゃん！！ハンター来てるから逃げて！！」

ナナ「ルイージさん何やってるの？！きゃあああ！！」

ナナと共にハンターから逃れるルイージ。二人は曲がり角で別々に逃げる。ハンターに追われたのは・・・

ルイージ「こつち!？」

ルイージだった・・・ルイージは必死に逃げるが距離が縮まる。そして・・・

ルイージ「うわあああ!!！」

ポン

ルイージ確保 残り30人

ルイージ「あんなこと言うんじゃ無かったよ・・・」

ナナ「確保情報『ルイージ確保』 此処危ないから早く逃げなきゃ」

ルイージの事は無視である

一方 星のカービィエリアでは

トウーン「まだ自首するのは早いかな・・・」

そんな時

ガノンドロフ「貴様が・・・」

トウーン「うわっ！？ガノンドロフ！？あ、今マスターソード無いんだ。どうしよう・・・」

ガノンドロフ「小僧貴様何か勘違いしてないか？潰すのはこの逃走中が終わった後だと言っただろう」

何気に怖いこと言ってます

トウーン「そ・・・それよりミッションとかしないの？」

ガノンドロフ「俺が人の為に働けと？馬鹿言っな」

トウーン「そ・・・そうだよな・・・」

超ビビってます

と、その時

？「お？良い獲物が居たね！！早速通報だ！！」

裏切り者だ・・・。急いで携帯を取り出し

？「トウーンリンク、ガノンドロフ。星のカービィエリアに居ます」

通報を受けて確保に向かうハンター

トウーン「うわ！？ハンターだ」

ガノンドロフ「早く逃げるぞ！！」

二人は逃走を図るが・・・

トウーン「やばい！！前からハンターが！！」

前方からもハンターが来てさらに此処は一本道になっている。絶体
絶命だ

ガノンドロフ「チィ・・・」

トウーン「賞金が一!!」

ポン、ポン

トウーンリンク、ガノンドロフ確保 残り28人

リンク「メールだ!! 確保情報『裏切り者によりトウーンリンク、ガノンドロフ確保』えええ!!?」

シーク「これでゼルダの伝説組は僕とリンクだけか・・・」

?「これで40万か。どんどん通報してやる」

そう言ってメイドインワリオエリアに向かう裏切り者だった

怒涛の確保ラッシュ（後書き）

牢獄

ルイージ「僕って運悪いのかな・・・」

トウーン「裏切り者め・・・」

ガノンドロフ「よほど殺されたいようだな。俺を通報するとは」

ピカチュウ「二人も裏切り者をボコボコにしてほしいピカ！！」

トウーン「勿論だよ！！」

ガノンドロフ「血祭りだな」

スネーク「ルイージも参加してくれ」

ルイージ「当たり前だよ!!」

こうして新たな同盟メンバーが増えました 裏切り者が捕まるのが
楽しみだ!!

ミッション2 PART 3 (前書き)

ミッション2の続きです

ミッション2 PART 3

アイク「さて、作者を探さなければ・・・」

アイクは二人の作者を見つけなるべく近くを散策していた

そこに

マルス「あ、アイクさん!!」

アイク「マルスか。どうした?こんなところで?」

マルス「いえ、僕もミッション参加しようと思って」

アイク「なら話が早い。蒼炎の軌跡エリアに向かってくれないか?」

マルス「分かりました！！着いたら連絡します！！」

そう言ってアイクの元から去る

アイク「さて、居れば良いんだが」

すると

無幻「あゝあの人もこの人も皆死ねば良いのに」

何て歌歌ってんだ！！

アイク「おい、作者！！鍵を渡してくれ」

無幻「んあ？アイクか？別に良いがてめえも物好きだな」

アイク「すまない。さて、早く減額装置を止めなければ」

アイクは全速力でメイドインワリオエリアに向かう

一方で紋章の謎エリアでは

オリマー「着きました!!」

何とか紋章の謎エリアに着いたオリマーはkさんを探す。すると

ルカリオ「どうしたんだ？ミッションに参加しているのか？」

ルカリオだった。彼はミッションに参加するつもりは無いらしいが
辺りをうろついていたらしい

オリマー「はい、ですがkさんが見当たらなくて・・・」

ルカリオ「私の勘だが近くに居るぞ」

波導が使えなくても気配等を感じる事は出来るらしい

オリマー「ありがとうございます！！少し辺りを探してきます！！」

すると

k「オリマーさん、ルカリオさん。なにやってるんですか？」

なんとルカリオの言っている事は本当だった。流石としか言いようがない

オリマー「あの、鍵持ってますか？」

k「鍵？ありますよ。何に使うか分からなかったんで持っていました」

ルカリオ「私達はその用途を知っている。だから鍵をくれないか？」

k「分かりました」

そう言って鍵を渡された

オリマー「ありがとうございます。では、行きましょう！！ルカリオさん」

ルカリオ「ああ、早く行かなければ間に合わなくなる」

二人も急いでメイドインワリオに向かった

k「何だか分かりませんが頑張ってください!!」

そう言って手を振るkさんであった一方でマルスはゲーム&ウォッチと合流していた

マルス「作者さん見かけませんでした?」

ゲーム&ウォッチ「スマナイ、俺ハズットコノ辺リニ居タガ誰ニモ会ワナカタ」

マルス「そうですか・・・じゃあ別の所探してみます」

二人が別れるその時

ゲーム&ウォッチ「ヤバイ、ハンターダ!!」

マルス「早く逃げないと・・・」

二人は別の道を逃げる。ハンターが狙いを定めたのは

ゲーム&ウォッチ「俺力!？」

追われたゲーム&ウォッチは逃げるが距離が縮まる

ゲーム&ウォッチ「ウワアアア!!」

ポン

Mr・ゲーム&ウォッチ確保 残り27人

マルス「確保情報『Mr・ゲーム&ウォッチ確保』・・・僕って今日二人ですよ・・・巻き込んでしまったの・・・」

かなり罪悪感を感じている王子だった

残り時間 85分

ミッション終了まで 5分

ミッション2 PART3（後書き）

果たして賞金減額を阻止できるのか!？

ミッション2 PART 4 (前書き)

続き!!

ミッション2 PART 4

アイク「何とか着いたな・・・」

アイクはメイドインワリオエリアに到着した

此処はワリオの家や、会社ワリオカンパニー。その社員達の家等がある。因みに上空にはオービュロンが居る レプリカです

アイク「何とも近代化の進んでいる場所だな・・・ワリオの世界は・・・」

と、普段見ない景色を見渡した後。減額装置に向かう

現在から3分前

裏切り者は誰よりも早く減額装置に辿り着き近くの物陰に隠れる

??「ふう・・・まだ誰も来てないようだな・・・。ミッション終えた奴らを一網打尽にしてやるぜ！」

かなり通報に気合いを入れている裏切り者。
そもそもスマッシュブラザーズは一部を除いて仲間を信頼している。
裏切り等もつての他

だが、そのもつての他の事をしている裏切り者は信頼さえも裏切った。故に死を見ることになるだろう

・・・と、話がズレてしまった。話を現在に戻そう

裏切り者が待つなかカギを持ったアイクがやって来た

アイク「どうやらこの鍵穴に入れるらしいな」

アイクはカギを刺し回す

ガチャ

一本目のカギ ロック完了。残り一本

アイク「さて、行くか」

アイクはすぐに立ち去ろうとする

??「ククッ逃がすわけないだろ。アイク メイドインワリオエリ
アに居ます」

通報を受けたハンターはアイクの確保に向かう

アイク「まずいな・・・ハンターだ」

アイクはハンターに気付き逃げる。

アイク「此処は建物が多くて助かる・・・」

だが、建物を使い上手く巻いたのだ。ハンターもアイクを見失う

アイク「危機一髪だったな。早く此処を離れるか」

アイクは急いでその場を離れる

??「チツ・・・大人しく確保されればいいものを」

少し悔しがっている裏切り者

一方 もう一本のカギを持ったオリマー、ルカリオは

ルカリオ「まずいな。後3分しかないぞ!!」

オリマー「分かっていますが私の足じゃ間に合いません・・・」

ルカリオ「私もそこまで速くないしな・・・ヤバイな」

かなり距離の離れている紋章の謎エリアとメイドインワリオエリア。
まだ3分の1程度だ

オリマー「ですが出来るだけ頑張ってみましょう」

ルカリオ「すまんな弱音を吐いてしまうなんて・・・私らしくないな」

そう言い二人は走るスピードを上げる。すると、そこに救世主が

オリマー「あ、ぜ・・・シークさん」

シークだった。彼もミッションに参加しようとした一人だった

余談だが少し間違えかけたオリマー。無理もない

シーク「ちょうど良いところに。二人はカギを持ってないか？」

ルカリオ「有るには有るが・・・時間が迫ってるのだ」

さつきから問題になっていた残り時間。だが・・・

シーク「僕が行くよ！！僕の足ならきつと間に合う」

オリマー「本当ですか！！お願いします！！」

オリマーは持っていたカギをシークに渡す

シーク「確かに受け取った！！頑張ってくるよ」

そう言ってシークは凄いスピードで減額装置に向かうのであった

果たして減額装置を止める事が出来るのか

残り時間 83：21

残り逃走者 27人

ミッション終了まで後 3分21秒

ミッション2 PART 4（後書き）

牢獄

クツパ「暇なのだ!!」

ポポ「しょうがないよ・・・僕達最初の方に確保されたから」

無幻「じゃあDSしよっぜ!!」

トウーン「良いですね!!・・・って、作者いつの間に!？」

無幻「気にするな。それより早くしないと始めるぞ!!」

それから一部の者はDSを始めた。

作者無幻。ハンター並みに神出鬼没である

ミッション2ーFinal(前書き)

今回はシリアスモードです

ミッション2ーFinal

オリマー達と別れたシークはひたすら走る。目にも止まらぬスピードで。そしていとも簡単にメイドインワリオエリアの入口付近までやって来たが、ミッション終了までの時間は長くは無かった

シーク「さて、残り時間は・・・不味いな・・・後1分ちよつとだ。急がないと・・・でも、流石に体力が・・・」

少々とはしすぎたのか体力が限界だった。そして、更に悪運は重なる。そこに運悪くハンターが・・・恐らく、さっき裏切り者が呼んだハンターだろう。

シーク「こんなときに・・・不味いつ」

シークは残る体力を振り絞り必死に逃げる。が、距離が縮まり確保されそうだった。このままではミッション失敗確実かつ、逃走者が減ると言う絶望的状况となっている

だが、そこに救世主が・・・

マリオ「　ん？　シークがハンターに追われてる！？」

マリオだった。マリオも逃げる準備を始めようとすると、隣にシークが走って来た

シーク「マリオ、僕はもう駄目だ。この力ギを！！これを減額装置に！！」

マリオ「おい、待てよ。俺は許さねえぞ！！諦めるなんて」

シーク「僕は良いんだよ。ミッションを手伝えただけでも。それに、今の僕なら絶対に間に合わない。行ってくれ！！マリオ！！」

マリオ「・・・分かった。だが、俺はお前の分まで頑張るからな！

！」

シーク「頼んだよ。皆の為にも・・・」

カギをマリオに託した後、徐々にシークの走るスピードが遅くなり

ボン

シーク確保 残り26人

シーク「マリオならきつと・・・」

オリマー「『確保情報。シーク確保!!』シークさん・・・あれ？
『だがマリオにカギを託した為ミッションは継続中だ』」

ルカリオ「もうマリオに託すしかないな・・・」

その頃、マリオは

マリオ「クソ、間に合えよ!!」

マリオはシークの思いを受け、全力で走る。そのスピードは普段のマリオの走力とは比べ物にならない。

マリオ「よし、見えてきた!!」

すると目の前に減額装置が!!

だが・・・

ミッション終了まで

マリオ「よし、後はカギを回してロックすれば。」

3

4

マリオ「間に合え!!間に合えー!!」

6

7

8

9

2

1

ガチャ!!

ミッションクリア

マリオ「やった・・・のか？」

牢獄

スネーク「『ミッション結果 アイク、オリマー、ルカリオ、シーク、マリオの活躍によりロック成功。賞金は通常通りになる』よし！！やったぞ！！」

シーク「ふう・・・捕まっちゃったよ・・・」

ナナ「牢獄からの映像見てたよ！！凄いやシークさん！！」

シーク「そうかな？僕は当然の事をしただけだよ」

と、牢獄内はミッション2の結果で盛り上がった

マリオ「ハア・・・何時も以上に力入っちゃったな・・・少し休むか・・・」

???「感動の場面悪いけど捕まってもらうよ。マリオ、メイドインワリオエリアに居ます」

通報を受け、マリオの元に向かうハンター。マリオはまだ気付いて居ない・・・

マリオ「ハア・・・ハア・・・！？不味いハンターだ」

マリオはまだ完全に回復していない体を動かし逃走を図る。果たして逃げられるのか

ミッション21 Final（後書き）

最近感想少ないんでお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8621v/>

スマブラ×逃走中 賞金をかけた壮絶な戦い

2011年12月16日20時47分発行